



# SUNDAE から生まれる Wakayama Born from SUNDAE 新たな城下町



木村さんが目指しているのは、自分のお店だけが繁盛することではありません。お店を出店した和歌山城周辺のにぎわいも創り出したいと話しています。木村さんは和歌山の課題の1つが、「新しいカルチャーを体感できる場所が不足している」ことだと考えています。そんな木村さんが理想とするのは、「新しいカルチャーに触れることのできるお店が集まる新しい“城下町”を作ること」です。カフェや美容室といった木村さんが展開しているサービスの同業店が、近くに新しくできることも歓迎しているのだとか。今までにないお店が集まると、そこに人が集まり、まちの賑わいに繋がると木村さんは考えています。そのための行動はすでに始まっていて、「SUNDAE」の一部のスペースは自分のお店を開きたい人のための貸しスペースとなっていて、既に古着店などの出店の計画も進んでいるのだとか。

新しい城下町を作るための変化が「SUNDAE」から少しずつ生まれています。

## 編集メンバーおすすめの1冊



### コーヒーと日本人の文化誌 世界最高のコーヒーが生まれる場所 メリー・ホワイト / 著 有泉英美代 / 訳 創元社

日本にはカフェが全国各地に多数あり、コーヒーを飲むことが日本人のライフスタイルの1つとして確立されています。そんな日本のコーヒーが「世界最高のクオリティ」と賞賛されていることはご存じでしょうか。本書では日本のコーヒー文化の歴史を紐解き、現代社会におけるコーヒーの役割についてアメリカの人類学者がまとめています。なぜ日本ではコーヒーを飲む文化が強く根付いているのでしょうか。ただの飲み物ではない、コーヒーの可能性に気付くことのできる1冊です。

## 編集後記

今回は新たなライフスタイルを提案するために美容室とカフェの併合店を経営する木村知弘さん取材しました。取材で何より印象的だったのが、木村さんの気さくな雰囲気です。誰とでも仲良くなれそうな木村さんのコミュニケーション能力は、美容室でお客様に快適なひとときを過ごしていただくために独学したのだとか。そのスキルがカフェでのお客様との会話においても発揮されているようでした。そんな木村さんの人柄に魅かれてか、元々美容室に通っていて、カフェにも通い始めたというお客様も多いそうで、スタッフの人柄がSUNDAEの魅力となっているように感じました。

さて、「和 the」は2024年1月で創刊3周年を迎え、1月15日~31日の期間にこれまでの「和 the」を振り返るフリーペーパー「和 the」展を開催しました！期間中、編集メンバーの想定を超える多くの方々にご覧いただき、アンケートでは読者のあたたかな声を伺うことができました。和歌山のワザをお届けするフリーペーパーとして進化し続ける「和 the」をこれからもよろしくお祈りします！

## 和歌山市民図書館

WAKAYAMA CIVIC LIBRARY

〒640-8202 和歌山県和歌山市屏風丁17番地

TEL : 073-432-0010

開館時間 : 9:00~21:00

図書館の詳しい情報はこちらから

和 the バックナンバーは、図書館HPより  
ご覧いただけます



ホームページ



Instagram



facebook



14

2024.4.1 発行  
TAKE FREE



取材協力 : SUNDAE オーナー 木村知弘さん

和歌山市民図書館  
WAKAYAMA CIVIC LIBRARY

# 和歌山に起こす

# 新しいカルチャーの風

# Wakayama New Culture!

和歌山が誇る（技・巧・匠）を発信する和歌山市民図書館フリーペーパー和 the. Vol.14 のテーマは「ヘアサロン×カフェ」が生み出す、新たな自分に出会う場所。2024年1月、和歌山城の近くに新たにオープンした「ヘアサロン&カフェ」を営む木村知弘さんを取材しました。

美容師として県内外で経験を積んできた木村さんは2021年に地元・和歌山で独立し、メンズ専門ヘアサロン「SUNDAE」をオープン。2024年1月に移転し、新たな「SUNDAE」にはスペシャルティコーヒーと手作りスイーツを提供するカフェも併設し、木村さんは美容師とバリスタの2つの顔でお店に立っています。

木村さんがお店で大切にしていることが、新たな自分に出会うきっかけを提案すること。美容師のスキルを活かしてその人に合った髪型を提案し、カフェでは日常に珈琲のあるライフスタイルを提案しようとしています。

そんな木村さんはこれまで県外で様々な経験をされており、その経験は現在の和歌山での活動に通ずるところがあるようです。木村さんはこれまでの経験をどのように活かし、新たなカルチャーの風を和歌山に吹かしているのでしょうか。今回は美容師とカフェバリスタの2つの顔を持つ木村さんのワザに迫ります。

“メンズ専門ヘアサロン”だからこそそのヘアスタイルの提案を。



木村さんはメンズ専門美容師として活躍されています。「メンズ専門ヘアサロン」は和歌山ではまだ珍しい存在ですが、東京などでは多くなっているそうです。

木村さんがヘアサロンで大切にしていることは、「デザイン性と機能性を両立させること」。デザイン性は技術があればカバーできますが、機能性は当事者だからこそ分かる部分もあると話します。そのため木村さんはメンズに特化し、より1人1人に合ったヘアスタイルを提案しています。

東京⇄和歌山...2拠点だからこそ提供できる「かっこよさ」

和歌山でお店を構える以前は、東京でフリーランス美容師として活躍されていた木村さん。美容室に所属しないため、集客は自力ですする必要があり、まっ行く人に声をかけ続けた日もあったのだとか。そんな当時のお客さんとの縁を大切にするために、和歌山に店舗を構えた後も毎月1度は東京に通い続けており、東京のシェアサロンで新たなヘアスタイルを提案しています。流行の発信地とも言われる東京に毎月通うことで、最新のトレンドをキャッチしている木村さん。その流行を和歌山のお客さんにもいち早く提案することで、「最先端のかっこよさ」を生み出しているのです。



## 和歌山で活かす

## まちの外での経験を



SUNDAE

SUNDAE オーナー 木村知弘さん

和歌山市出身。高校時代に美容学校へ進学する友人の影響を受け、美容の道へ。美容学校卒業後に一度は美容業界を離れるも、人と関わる仕事に携わりたく再度志す。神戸や東京などで美容師としての経験を積み、メンズ専門美容室「SUNDAE」を2021年元旦に和歌山市内に開業。その後カフェのいろはを独学し、2024年元旦に1Fのカフェと2Fの美容室を併せた新たな「SUNDAE」を移転オープン。

東京での感動を和歌山で...  
「カウンター席のあるカフェ」



カフェには和歌山ではめずらしくオープンキッチンに向かうカウンター席が設けられています。木村さんが美容師として東京に通っていた当時、東京で訪れたカフェにカウンター席があり、店員とお客さんのコミュニケーションがカウンター越しに生まれている風景を目の当たりにしたそうです。せわしなさのある東京でも、カフェの店内ではゆったりとした時間が流れていたのだとか。木村さんは感動し、和歌山でも同じ風景をつくりたいと思い、ご自身のカフェづくりで一番こだわったのがカウンター席を設けることでした。

SUNDAE ではカウンター席を通して、店員さんとお客さんが和やかに話し合う風景が実際に生まれているようです。会話を通して、お客さんにとって居心地の良い空間を提供したいと木村さんは考えています。



流行に流されないお店をつくる。

木村さんは「SUNDAE」が人々に長く親しまれるカフェでありたいと願っています。そのための工夫の1つが、犬を連れての来店を歓迎していることです。お店の目の前にある和歌山城公園で犬の散歩をしている方にも気軽にお店に来ていただき、日々の散歩コースの一部になってほしいと話しています。また、店内はリノベーション前の内装を活用したタイル調に木のぬくもりを感じられる空間設計がされており、何度来ても飽きないお店づくりの工夫がされています。流行の影響を受けやすい東京での生活を経験したからこそ、流行に流されないお店を目指しているようです。



生み出されたこと  
融合することで  
美容室とカフェを

「SUNDAE」の最大の特徴は美容室とカフェが1つの建物で融合していること。木村さんは髪を切りながら、その合間にカフェにも立っています。

木村さんは美容室とカフェには共通点があると話しています。それは、「生活にプラスアルファの幸せを提供できること」。美容室とカフェは生活に欠かせないものではないかもしれませんが、そこでは非日常のひとつときを味わうことができます。「SUNDAE」という店名には、アイスクリームのサンデーのような「日常のちょっとした贅沢」を楽しめる場所であってほしいとの願いが込められているそうです。「SUNDAE= 新たな自分に出会える場所」として定着する未来を木村さんは創り出そうとしています。